令和５年度防府市総合教育会議議事録

１　開催日時　　令和５年１２月１９日(火曜日)　　午後２時００分

２　開催場所　　防府市役所　１号館３階南北会議室

３　出席者

防府市長		池　田　　豊
防府市教育委員会	教育長	江　山　　稔
	委　員	小　松　宗　介
	委　員	村　田　　敦
	委　員	田　村　純　子
	委　員	温　水　祥　代

４　会議に参与した者

学校教育課長	荒　瀬　淳　子
学校教育課主幹	石　川　　武
学校教育課主幹	山　本　健　作
学校教育課指導主事	上　塘　　斎
学校教育課指導主事	中　村　愼一郎
生涯学習課長	金　子　　照
スポーツ振興課長	糸　井　純　平
文化振興課長	桃　井　芳　枝
文化振興課国際交流室長	村　澤　　牧
文化振興課課長補佐	重　村　順　治

５　会議に従事した職員

教育部長	高　橋　光　男
教育部次長	池　田　　晋
教育総務課長	松　田　伸　一
教育総務課長補佐	岸　野　恵　美

午後２時００分　開会

○教育部長　それでは、皆様お待たせいたしました。定刻になりましたので、始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。ただいまから令和５年度防府市総合教育会議を開催いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます教育部長の高橋でございます。よろしくお願

いいたします。

初めに、防府市長より御挨拶を申し上げます。

○市長　皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、総合教育会議に御出席いただきまして、本当にありがとうございます。

私は、市長になって６年目になりますけれども、いまだに朝の見守りは続けておりまして、１年生だった子どもが中学生にまでなりました。今日も雨の中、会話をしながら、朝、見守りを行ったところでございます。

私は、市長就任以来、父も母も教員だった教員一族ということで、もともと教育にはすごく関心がありまして、子どもたちは平等でなければいけないとの思いから、市長になって以来、エアコンの整備や、タブレットも一斉に配付させていただいて、今年の４月からは通学用のかばんも１年生に配付するようにしました。

そして、議会でも質問がありましたけれども、学校のトイレの洋式化についても、市内一斉にやろうということで、今年、来年、再来年で、中学校まで全てトイレを洋式化しようと目指しているところでございます。子どもたち、特に義務教育は平等だという考えを持っております。

こうした中、本日は「がんばる子どもたちの活躍の場づくり」ということで、御意見を伺いたいと思っております。

御案内のとおり、地域クラブという形で令和７年から始まってまいりますが、それまでにだんだん変わってきますけれども、そうした中で、今週の全国中学校駅伝では、国府中学校が２位、高川学園中学校が８位となりました。岡山市の学校が男女どちらも優勝しましたけれども、防府は全国有数のまちですし、その他の吹奏楽も、小学生、中学生、高校生、頑張っています。また、今度ありますけども、高校生のラグビー、サッカー、バレーボールと、本当にこの防府のまちの子どもたちが全国に発信しています。

そうした中、文化のまち、吹奏楽のまち、スポーツのまちとして、子どもたちの活躍の場づくりについて、委員の皆様方の御意見を伺いたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

○教育部長　ありがとうございました。

それでは、本日の議題に入ります。

議長につきましては、防府市総合教育会議設置要綱第４条第１項の規定に基づき、市長にお願いいたします。

○市長　それでは、先ほど申し上げましたように、今日の議題といたしまして、「がんばる子どもたちの活躍の場づくりについて」を議題とさせていただきます。

事務局から説明をお願いいたします。

○学校教育課長　こんにちは。学校教育課の荒瀬でございます。

本日の総合教育会議のテーマである、「がんばる子どもたちの活躍の場づくりについて」御説明申し上げます。

本日、お話しする内容でございます。

まずは、防府市の子どもたちの活躍の様子についてお知らせをいたします。そして、子どもたちの今後の活躍の場づくりとして、現在進めている内容についてお話をいたします。

それでは改めて、今週日曜日の御報告でございます。中学生駅伝の聖地、滋賀県で開催さ

れた第３１回全国中学校駅伝大会に、国府中学校と高川学園中学校が山口県代表として出場いたしました。

３年連続の出場の国府中学校は男子の部全国２位、２年連続出場の高川学園中学校は女子の部第８位のすばらしい成績を収められました。

駅伝以外にも、様々なスポーツで子どもたちが活躍しております。御覧のように、防府市内の中学生の軟式野球選抜チームである防府クラブは、県代表として文部科学大臣杯第１４回全日本少年春季軟式野球大会に出場いたしました。

陸上競技、柔道、サッカーについても、県代表として全国大会に出場しました。第５４回全国中学校サッカー大会に出場した高川学園中学校は、ベスト８の成績を収めております。

文化面でも、多くの子どもたちが全国レベルで活躍しております。

日本学校合奏コンクール２０２３グランドコンテストに出場した国府中学校は、美しくまとまりがあるサウンドで金賞、会長賞に輝いております。同じく、華城小学校は、銀賞と奨励賞を受賞いたしました。また、松崎小学校は、第４２回全日本小学生バンドフェスティバルで銀賞を受賞しております。

市内の吹奏楽部に所属する子どもたちは、それぞれ目指すサウンドに近づけるように、日々熱心に音づくりに励んでおります。音楽のまち防府に育つ子どもたちが音楽を愛し、一層活躍してくれることを期待しております。

平成２３年、佐波小学校においてさざなみキッズサイクラーズが立ちあげられ、現在も地域の方の熱心な御指導の下、自転車の安全な乗り方、交通法規について学び、活躍しております。

交通安全子ども自転車大会では、実技試験、学科試験が行われます。さざなみキッズサイクラーズは、山口県大会で２年連続優勝し、今年度、５年ぶりに開催された全国大会に出場いたしました。全国大会でも練習の成果を存分に発揮し、団体の部では４４チーム中６位入賞、個人の部では１７６名中７位入賞を果たすなど、見事な成績を収められました。

国府中学校科学部は、研究テーマ「山口県の漂着ごみ調査～プラごみからカブトガニと鳴き砂を守れ～」を掲げ、県内１１か所の海岸で漂着ごみやマイクロプラスチックを採取し、漂着物の量や種類、鳴き砂等の研究を継続してきました。その研究成果が認められ、この度、日本財団の主催するマリンチャレンジプログラム２０２３中国・四国大会で、優秀賞を受賞し全国大会に出場されることになりました。

今年度、全国中学生人権作文コンテスト山口県大会には、防府地区から６６７点の応募がありました。そして、その中から富海小・中学校中学部３年、山根紗代子さんが最優秀賞である山口地方法務局長賞に選ばれました。世の中には目には見えない当たり前や普通と言われる物差しがあり、そしてその物差しは変えられるということを力強く表現しました。山根さんの作品は、来年２月の全国審査に出品されることになっています。

今月初めには、第７２回防府市美術展と市内中学校からの美術作品展を同時開催いたしました。中学生が美術の時間や文化祭等で作成した９９点の作品を、アスピラートの市民ギャラリーに展示し、多くの市民の方に見ていただく機会を設けることができました。

市内小中学校の吹奏楽の発表の前にあるＧＥＮＫＩコンサートは、子どもたちが日頃の練習の成果を発表する場として、夏のコンクールの前に開催しております。学校においては、新入部員が初めて演奏を披露する場にもなっております。音楽のまち防府の子どもたちの元

気な演奏を市民の皆様に広く楽しんでいただく機会でもございます。

市内中学校運動部の活躍の場である防府カップは、これまで３年間の頑張りを発揮する大会として夏季に実施してまいりました。来年度からは、開催時期を夏から春へ変更を予定しております。６月にある選手権大会は、全国大会につながるそれぞれのチームの総力を結集する大会でございます。春は選手権大会に向け、個人やチームの新たな広がりを発見し、ステップアップを図る機会でございます。そのステップアップのための大会として、改めて防府カップを位置づけ、４月に開催する予定でございます。

防府市は、東京オリンピックのセルビア共和国バレーボールチームのホストタウンとなりました。これを記念して始まったセルビア杯バレーボール大会では、今年度も市内中学校の１、２年生が激戦を繰り広げました。男女ともに、高川学園中学校が優勝し、セルビア共和国大使館から、賞品とトロフィーを授与され、さらにセルビアバレーボール協会からセルビアチームのユニフォームが贈られました。

今年度、初めて開催した子ども文化祭は、子どもたちが地域と共に行っている伝統芸能等の伝承活動の成果を発表する場となりました。姉妹都市である広島県安芸高田市の郡山子ども神楽団の皆さんにゲスト出演していただき、子どもたちの文化・芸術の発表、交流の場にもなりました。今年度は、小学生から高校生まで合わせて９０人あまりが舞台で表現をいたしました。

今年度の出演団体の皆さんです。上段左側から、アスピラート児童合唱団ファンファーレの皆さん、周防ちはや神楽保存会の皆さん、国府節保存会の皆さん、下段左側から、防府天満宮神楽舞紅わらべ保存会の皆さん、春日鬼太鼓の皆さんです。

また、当日の運営、司会進行は、防府市教育“夢”プロジェクト「ほうふみらい塾」の塾生が務めました。来年は、８月３１日土曜日に開催する予定でございます。今後も、子ども文化祭等での発表・交流を通じて、子どもたちの文化意識の向上や、文化芸術活動の促進を図り、ふるさと防府への愛着を高めていきたいと思っております。

今年初めて、県内唯一の科学館である青少年科学館ソラールで、中学生を対象としたやまぐちＵ１５科学アイデア作品・研究コンテストを実施いたしました。このコンテストは、子どもたちに科学への関心を持って、科学する子どもたちの裾野を広げるとともに、科学作品や研究成果の発表を通して、お互いを高め合うことを目的としています。

最優秀賞の２つの呼称は、それぞれ防府市にゆかりのある科学者の名前が付いています。柏木幸助大賞は、高川学園中学校３年科学部カメ班が受賞いたしました。ニコラ・ステラ大賞は、慶進中学校３年生が受賞いたしております。この２組は、１２月２５日から２７日に副賞である科学の旅に行ってまいります。東京にある国立科学博物館などに行き、さらに科学への興味を深めていただきたいと思っています。

続いて、今後の活躍の場づくりについて、２つ御紹介いたします。

１点目は、コロナ禍で中止されていた姉妹都市であるモンロー市との交流再開です。事前協議のため、今年１０月には防府市から代表５名がモンロー市を訪問しました。これまでは高校生だけの派遣でございましたが、中学生の派遣についても検討中です。また、富海小・中学校にモンロー教室を設置し、モンロー市から高校生が来訪された際には交流の場として考えています。

ここで、１０月にモンロー市を訪問した村澤国際交流室長から、現地での交流先や人々の

様子などを紹介してもらいます。お願いします。

○文化振興課国際交流室長　失礼いたします。文化スポーツ観光交流部文化振興課国際交流室長の村澤牧と申します。

私は、１０月６日から１０日までの３泊５日で、コロナ禍で中断している姉妹都市交流事業再開に関する協議のため、アメリカ合衆国ミシガン州にあります姉妹都市モンロー市を訪問して参りました。

モンロー市は、アメリカ合衆国の北東部、五大湖の一つであるエリー湖西側に位置する人口２万人ほどの歴史ある美しい景観の都市です。モンロー市とは、１９９３年に姉妹都市提携を締結しました。今年度は姉妹都市提携締結３０周年にあたります。

両市の交流事業として、夏休みの期間中に高校生を相互派遣する「青少年語学研修派遣事業」を行い、それぞれ一般の御家庭でホームステイをしながら語学研修や社会見学、そして文化交流をしてきました。今までに、防府市からの派遣は２６回、計１３３人を派遣し、モンロー市からは２５回、計１１５人を受け入れています。

新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延の影響を受け、相互派遣事業は令和元年度を最後にこの４年間中断しておりますが、私たちは、この中断している事業を令和６年度から再開するにあたり、事業の考え方、進め方について、改めて担当者レベルで相互確認、調整を行うためにモンロー市を訪問しました。また、再開にあたり、今まで高校生のみであった防府市の派遣対象者に、今後は中学生も加えて参りたいという考えを伝え、モンロー市関係者の率直な意見を伺い、協議をして参りました。

皆様も御存じのとおり、現在日本では、小学校中学年から英語教育がスタートし、事業が開始した３０年前とは、子どもたちを取り囲む環境が変化しております。早期英語教育に伴い、中学校では、英語によって互いの気持ちや考えを伝え合う会話的な言語活動が重視されるようになりました。

また、本市には、英語教育を重視したカリキュラムを取り入れている富海小中一貫校もございます。この事業に中学生を加えることは、本市小中学生の英語によるコミュニケーションへの意欲喚起にもつながることから、令和元年に本市教育委員会から中学生派遣についての御要望を市当局にいただき、それを受けて、事業の見直しを市として検討してまいりました。

モンロー市の関係者の皆様は、本市からの提案について真摯に協議に応じていただき、日本の中学生の英語能力、精神力を熱心に確認され、モンロー市として中学生を受け入れることができるかどうか、私たち訪問団と一緒に御検討いただきました。結果として、来年度から中学生を防府市からの派遣対象者に加えることについて、現在最終的な調整をしているところです。

モンロー市では、この交流事業を市民団体が運営しておられます。運営に携わっておられる方は、ほかにそれぞれ仕事や家庭を持ちながら、自ら進んでボランティアで事業に関わっておられます。そのため、日本の、ほかでもなくここ防府市と３０年の長きにわたって交流を続けてこられたことに特別な思いを持っておられます。３０年来の友人を迎えるように、初対面の私たちを出迎えてくださいました。来年、防府市からの派遣生たちも、長年の友人の子どもを迎えてくれるように、ファミリーとして愛情を注いでくださることと思います。モンロー市での経験が、その派遣生たちの未来への選択肢をより豊かなものにしてくれると

期待しております。

私からの報告は以上です。

○学校教育課長　交流再開後、モンロー市から来られる高校生との交流を予定している富海小・中学校でございます。

富海小・中学校は、英語教育を軸とした小中一貫教育を進めております。教育課程を共有し、小学校１年生から英語に触れる機会を持っています。また、ＡＬＴも常駐しており、９年間を見通した英語教育を行うとともに、表現力やコミュニケーション能力の育成を目指す教育を展開しております。富海小・中学校の子どもたちにとって、モンロー市から来訪される高校生との交流は、それまで培ってきた表現力やコミュニケーション力を発揮する貴重な場となると思っております。

２点目の部活動の地域移行です。

防府市では、令和２年度及び３年度に、牟礼中学校に部活動指導員を派遣し、地域の指導者による部活動指導について実践研究を実施いたしました。

令和５年度は、８月から柔道協会と剣道連盟に依頼し、柔道及び剣道について休日の地域移行の実証実験事業をしております。さらに、令和６年度からは、平日と休日の地域移行について、柔道及び剣道に加えて、新たな種目を設定し、モデル事業の実施を考えております。

こちらは、地域移行後の活動場所の分布図でございます。活動場所については、原則として３つの活動エリアを基に、移動時間や備品面等を考慮し、中学校施設等の利用を想定しております。活動エリアの設定に当たっては、生徒がなるべく徒歩または自転車での移動で済むよう、校区をベースに市内を三つに分けております。

現在、子どもたちの活躍の場として、行政が運営を担っているものと、それ以外の外郭団体が運営されているものがございます。行政が運営している各種大会やコンサート等については、学校や市の施設など、これまでは教職員を中心に、子どもたちの活躍の場をつくってまいりました。

今後、学校部活動が地域クラブ活動に移行する中で、子どもたちが活躍する場もこれまでよりも広がっていくと考えています。児童生徒、保護者、教職員及び地域が一体となって、子どもたちが継続して活躍できる場づくりをしていく必要がございます。そのことで、子どもたちと地域の方との交流が盛んになればと期待しております。

事務局からの説明は以上でございます。

○市長　「がんばる子どもたちの活躍の場づくり」ということで、今、課長の方からいろいろと説明がありました。

防府市では、子どもたちの活躍する場づくりということで、防府市独自の部分で、科学コンテストなど今年から始めました。また、ＧＥＮＫＩコンサート、防府カップ、バレーのセルビアカップも防府市独自で始めています。今年から、防府市の美術展に中学生にも参加していただくことにしました。

また、子ども文化祭では、地域で活躍している子どもたち、特に、伝統芸能を中心に、将来引き継ぐために活動している子どもたちを披露する機会として、三友サルビアホールで演じてもらうということで今年始めまして、来年度はもっと多くの子どもたちに出てもらうようにしたいと思っているところです。

冒頭申し上げましたけど、防府市の子どもたち、本当に小学生も中学生も高校生も、非常

に頑張っていますけれども、これから、こうした場づくりを行政としてどのようにまた支援していくか、地域クラブが始まりますけれども、その中で委員の皆さん方の忌憚ない御意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いします。

教育長、何かありますか。

○教育長　今年は市の美術展の中で中学生の美術の作品を展示させていただいて、文化祭等で出されたものを展示して結構いい反応があったので、あれがなかなかよかったんじゃないかと思っているところです。

○市長　はい、いろんな子どもたちも地域と一緒になって、教育は教育、学校現場だけでなくて、防府市全体のことと個人的には思っています。

田村委員何かありますか。自由に意見を述べていただければと思います。それをこれからに生かしていきたいと思っています。

○田村委員　大勢の子どもたちが活躍しているのは、子どもを平等に見ておられる、この姿勢が、こういう素敵な子どもたちを育んでいくのだろうなと、非常に感銘を受けています。

特に、今年から始まりました子ども文化祭、当日所用で行けなかったのですが、行った友達に聞きますと大変すばらしかったと。地域と子どもが一体となって活躍していたということを聞いて、大変うれしく思いました。本当に、今後もこういう子どもたちをしっかり発掘していきたいと思うと同時に、今まで当たり前のようにできていたことが、最近できなくなりつつあります。

例えば、子どもたちが一緒に学べる仲間、一緒に遊べる仲間がいなくなったり、時間がない。それから、遊んだり悩んだりする空間、場所がない。学校が終わったらすぐに家に帰る。そしてお稽古事に行く。私はよく言いますが、仲間も時間も空間もない。

そんな中で、子どもにどんなふうに活動の場を与えたらいいのかなと、いろいろ考える中で、例えば、時間があったら学校のカリキュラムの編成、再構築ですね。聞くところによりますと、放課後、３時に子どもが帰ると、すぐにゲームするのではなくて、まだ明るいので、みんなで集まって、サッカーでもしようじゃないかというような時間がもてる。それから場所も、今は、校庭開放でほとんど学校のグラウンドが使えないんです。私が学校にいたときも使えなかったんです。学校で遊びたい子が遊べる場所がない。また、公園には制限がいろいろかかっていてボール遊びなどもできない。結構、子どもにとっては厳しい状況になりました。

そして、仲間もいろいろな仲間と絡みたいのだろうけれども、お稽古事に行ったり、補習に行ったりしてなかなか遊べない。そういったようなことがあって、子どもたちにとっては、少し場が、そういった仲間、時間、空間が足らないのではないかと思います。こういった子どもたちをもっともっと多く、自己肯定感が高い子どもたちをつくっていくには、もっともっとそうした場を与えてあげたいなと思います。

例えばオアシス教室ですが、まちの真ん中にあると、行きにくいけどちょっと来てみない？って声がかけられます。行きやすいまちの真ん中に置いてもらえると、地域の人間も一緒に行こうって言うことができますし、子どもの抵抗感も少し下がるのではないかと思っています。

また、一旦家に帰ってランドセルをおいて、学校に来てみんなで遊ぼうよっていう日があってもいいと思うんです。それは先生が一緒にいなければならないわけではありません。子

どもたちに任せて、子どもたちで自ら集って遊ばせるという、そういった経験、体験を育てていくことも大事ではないかと思います。

このように脚光を浴びる子どもたちはもちろんですが、もっと普通のレベルの子どもたちに、もっともっと活躍できる場を与えるためには、そういった大人ができるハード面での支援が必要になってくるのかなって思いました。

市長さんの全ての子どもに目を向けておられる姿勢、いろんなことをしていただいていることで、さらなる具体的な取組をお願いできたらありがたいなと思います。

○市長　今、３つの「仲間」と「時間」と「空間」ということで、学校で遊んだらどうかということがありましたけれども、僕は小さいころ毎日遊んでいたので、家でおとなしくしないといけない日を作られたことがありましたが、昔はそのぐらい学校の帰りにみんなが遊んでいたような気がします。

どうしたら子どもたちに一番いいかなということを、市の中でもいろいろ検討をしております。子どもたちの遊びの空間として防災公園等も作りますから、そういうものも使ってもらえればと思っています。また、今年度、小学校区全てにインクルーシブ遊具を設置することにしています。今年の３月ぐらいに完成する予定ですが、これもみな平等ということでやっています。健常者や障害をもった子どもたち、お年寄りも含めてみんなが行けるようにしたいと思っています。

議会でも、遊ぶ場所がない、公園がないということがありましたけれども、昔は遊具がなくても遊んでいたので、遊ぶ場所があったらいいと思っています。結果的に芝生があれば一番喜んでくれるんじゃないかなということで、今、潮彩市場の周辺を県が整備していますが、みんな芝にして遊べるようにしたいと思っています。いろんなところで、安全にそういう何もなくても子どもたちが遊べるようなものを整備していきたいと思っています。

また、防災公園を三友サルビアホールの北側に作ることにしています。今の文化福祉会館のところですが、あれは元々、僕が小学校のころ僕らの遊び場だったところに市が施設を作った場所で、また、ああいうところで子どもたちが遊べるようになればいいなと思います。きっと遊べる場所があれば、子どもたちがそこに集まって、野球でもソフトでもやれるように、今ごろはサッカーと野球かもしれませんが、どこでも遊べるような場づくりが必要ではないかなと思っています。

小松委員、何かございますか。

○小松委員　さっき、平等という話を伺って感じたことですが、がんばる子どもたちの活躍の場づくりというテーマを聞いたときに、がんばらない子どもたちはどうなのか。そういった子たちが生きがいを感じたり、生きがいを意識できる場づくりというのも必要なんじゃないかなと僕は思います。

ときどき孫の面倒を見ているけれども、何をしているかなと思ったらずっとＹｏｕＴｕｂｅで遊んでいる。外で遊んでいることはぜんぜんないです。もう一人の孫は毎週水曜日にうちに来ますが、外で遊ぶように誘ってみても、やはりゲームをやっているから、僕たちが子どものときみたいに、外に出て仲間をつくって遊ぼうっていうのは少なくなっています。実際、保育園の子育てセンターがありますが、何しに行っているかというと、そこにゲーム機があるから行く。できたら、本当、市長がおっしゃるとおり楽しい遊び場があって、みんなが集まるっていうようになればいいけれども、私はピアノがある、何があると言って、実際

ちゃんと集まらないですね。現実には。

今日の説明にあった子ども文化祭だけど、教育委員としてこの場にいるから、子ども文化祭というのがあるなってわかるし、私も見に行きました。でも、こんなに素晴らしいものをやっていても、ここに集まる人っておそらく教育関係者、もしくは市役所の人間、そして、出演をする子どもたちの関係者ぐらいで、そういう人たちしか来ない。それを考えると、それに関係ない、さっきもありましたけど、できない子とか、やれない子とか、ああいう子たちが集まれるような環境づくりをしてあげないと、やはり、これは発展していくっていうのは難しいと思います。そして、せっかく伝統文化があるのであれば、それにいかに携わることができるか、なぜ楽しめたのか、そのことを教えてあげる人、参加している子どもたちが、「おい、一緒にやろうや、これって面白いぞ」と言えるような文化であってほしい。ところが面白くないけど、やれって言われるからやるのであればなかなか広まっていかないと思います。

僕の家の近所に塩田公園がありますが、１年に１回行くか行かないかです。それも誰か遊びに来たときに連れて行くぐらいです。せっかくあっても行かないんですよね。

もっと、みんなが本当に楽しく集まれて、できない子がそこに行っても楽しく遊べるっていうのがあればいいけど、それは、今、学校でスポーツ等を地域の人でやっているそれなんかにも僕は通じるんじゃないかなと思っています。

長くなりましたが、本当にできない子、頑張れない子、そういった子がいかに生きがいを生み出せることができるかってことを、もう少しできたらいいなと思います。頑張る子は何があっても頑張りますよ。国府中の子が全国大会で２位になってすごいですよね。でも、じゃあ、僕ができるかっていったら、お前はビリだからって言われると寂しいですよね。ビリでもみんなが頑張ると。やはり、みんなが豊かな心がもてるように平等に育てていけるようになったらいいなと思います。

○市長　今回の駅伝もそうですけど、頑張っている姿を見て、走らない子どもも本当に自分のことのように喜んでくれるとか、それが一番、理想なんだと思います。また、みんな頑張っているのが、みんなとても元気もらったって言うけど、同級生が頑張ったのも、自分のことのようにみんなが思えればいいと思っています。

今、子どもたちにもホームランを味わってもらいたいということで、野球場を狭くしてスタンドを作って、電光掲示板にしてオーロラビジョンも付けるようにしています。７月２０日のオープニングには、市内の学童野球のチームを全部集めて、東西に分けて勝ち負けじゃなくて全員が試合に出るようにして、オーロラビジョンにみんなの名前と姿を映したら子どもたちのいい思い出になるかなと思っています。今、だんだん野球人口が減っていますから、ちょうど、防府商業の準優勝から５０年ということもありますので、委員がおっしゃったように、できる子できない子全てが楽しめるようにできたらいいなと思います。

地域クラブもそれが究極の目的だと思います。能力に応じてみんなが楽しめる、スポーツや文化クラブで楽しもうというのが目的の一つだと思うんです。そのためには、地域の方の力も借りないといけない、一人だけじゃちょっと無理なので。私も市長でなかったら何かに参加したいなと思っていますけれども。

働き方改革もあるとは思いますが、それがやっぱり子どもたちのためになるような変わり方にして、昔のように子どもたちが遊べるように、どこ行っても子どもたちが集まって、自

分たちが活躍してくれるってことが一番いいことだと思います。

○小松委員　そうなるとこっちも嬉しいですよね。自分たちが楽しかった経験、伝えることが一番だと思います。

○市長　僕は、毎日集団登校を見送っていますが、早めに行って、集まった集団の１年生、２年生、３、４年生と話をしているんです。向こうは市長と思っていなくてどっかのおじさんと思って話をしてくれますから。学校はどうなのと聞いたら、マラソン大会の話をしてくれて、何位だったって聞いたら、４０何位だったって。それで何人で走ったのって聞いたら、４０何人って言って。昔と違ってマラソンでビリでも気にしてなくて、それを自慢しているんですね。子どもたちと話していると、僕らの頃と変わったなと思って、考え方を変えながら面白いなあと思いました。やっぱり子どもたちが頑張っているという意識をもってくれるのが一番いいことだと思うんですよね。自分は頑張ってるんだっていう意識をもってやっていくことが。

村田委員さん、何かありますでしょうか。

○村田委員　教えていただきたいんですが、まずは学校の部活動を地域移行するというのは、大きな要因として少子化があると思うんですけど､防府は人口自体は維持されていますよね。少子化っていうのもありますが、子ども自身のいろんな価値観の変化でそういった学校のクラブ活動とかに参加しない子は増えてくると思います。こうした輝かしい成績もありますけれども、こうしたものに参加する人が、将来当然減ってくると思います。そういったものに対する対策のようなものは何か考えていらっしゃるのでしょうか。

○教育長　地域クラブはもちろんつくっていきますが、一緒に公民館活動とか、いろんなところで、何が行われているかってことで、一つの放課後の受け入れ先として、文化系とか、お稽古事とか、そういったたくさんのメニューを用意することは考えています。

ただ、どこに行きなさいということはできないので、トップを目指す子は自分で探してクラブに行ったり、仲良くスポーツを楽しみたい子、あるいは、私は運動じゃなくて文化で一緒にやりたいという子にも、そういった場をつくっていこうと思います。

ただ、みんな、全員が行くかどうかというのは、やっぱり家庭の問題もあります。

○市長　温水委員、なにかありますか。

○温水委員　私も子どもをもつ親として、部活動の地域移行について、ここにあるように地域移行すると平日に週２回程度の練習になってしまう、土日もどちらか１日となると思うんですけれども、やはりそうなると早く家に帰る子が増える。早く家に帰るとなると、塾に行く子もいると思いますが、みなさんもおっしゃったように、ゲームしたりっていうところが大半な子になってくると思うんです。昔だったら、早く帰ったらままごとしたり、鬼ごっこしたりして、そこで下半身が鍛えられたりする。遊んでいる中で、瞬発力などが自然と身についてきたものが、今は、家でしか動いていないような状態になっていて、運動能力の低下につながっているのかなというふうに感じています。

やっぱり、そういういろんなことを遊びの中で経験したりすることの多さによって、子どもたちの能力も自然と上昇傾向についていくのかなと思う中で、週２日っていうきまりが、今までの部活だったら毎日やるのが当たり前というか、そういう状況であれば部活に行っているけれども､別に行かなくてもいい状況なら行かないっていう子が多いかなって思います。いいものを持っている子が力を発揮できないというふうになってしまうと残念だなと思うと

ころもあります。やっぱり、国府中の子も、毎日すごく走って、練習して努力して、その積み重ねの結果だと思うんですね。そういう子が減ってしまうのは、ちょっと寂しいかなと思います。

あと、部活動のエリア別で分けられると思いますが、ここに指導者の方がちゃんといらっしゃるのかっていうのも心配ですし、もし決まっているのであれば、この部活は誰先生、誰監督ですよっていうのを教えていただけるなら、預ける者としてはあの先生に見ていただきたいっていうふうに、安心ができるのでいいかなと思いました。

○教育長　それを出せるように、指導者を探しているところです。

今までは、学校の教員が転勤でいろいろ異動する場合があったから、今度は教員ではなくて、転勤になってもちゃんと持続可能なものになるように、しっかり探していきたいと思っています。

それから、さっきの体力の面でいうと、僕は中学校の体育教師でしたが、自分の授業と部活に委ねたことは結構あります。だけど、今こういう時代になってきたから、部活に入っていない子もいっぱいいるわけで、週３回の体育の中での体力づくりを基準に考えて、みんなの体力を考えていくというのが必要になってきます。そのへんは授業づくりで考えていく必要があります。

○市長　ちょっと聞きますが、地域クラブになったら、今までと違って小中一貫で子どもたちを教えるようになっていくんですか。

○教育長　それは、スポーツ少年団も武道もですが、ＯＢがきて一緒にやっているのもあります。バスケットとかは、ミニバスとゴールの高さが違うからできないところもあるけれども、中学生だけというわけではなくて、地域の小中学生が一緒にやる形もあります。

○市長　いい面悪い面、両方あるんだろうと思います。一貫のほうがいい場合もあるんじゃないかと思ってて、私も陸上をちょっと教えていたら、学校はクラブをつくったらいけないので、自主練で、子どもたちにメニューを渡して、田舎のほうだから山を走れっていうときもありましたけれども、それでも県大会で勝ったりしていましたけれども。やっぱり教え方によるところもあるし、競技によって、また指導者の思いによってもかなり変わってくるのではないかなと思います。全国で変わっていくので、いいほうに展開するように市でも支援していきたいなと思っています。

さっきの野球場もそうですけど、子どもたちが夢をもてれば、また頑張ってくれると思うので。遊び場の件もありましたけど、また、頑張ったら頑張ったで舞台もあるよというような形で、さっき言った、頑張って甲子園を目指す子どもたちと、楽しく野球をやる子たち、それぞれに応じてできるように今回なればいいかなと。まあ、逆に言えば、今までだったらレギュラーになれないけれども、能力別に分けたら試合に出られるというようなメリットがまた一方で出てくると思うんですね。そうした中で、教育委員会は考えてくださると思いますけども。さきほどありましたけれども、能力に関係なくみんなが運動ができて、活動ができるっていうのが理想だと思います。その中で本当に頑張る子は全国で頑張るっていう。みんなが満足してくれるのが一番いいと思っています。

どうぞ、村田委員さん。

○村田委員　部活動の地域移行化で大きな問題は、やはり経済的負担が増えるんじゃなかというところがあります。そのことに対して公的に何かありますか。

○学校教育課長　経済的な負担については、国や県が困窮の家庭についての支援の対策を考えるようになっていますので、それを待ちながら、検討してまいりたいと思っています。

○市長　やっぱり、スタートしてみてからじゃないかと思います。スタートする前に、国や県がスキームは示すと思いますけれども、実際そうなったときに、市町村によって面積も違いますし、移動距離も違います。そういうところで、走り出してからいかに子どもたちのニーズにあった形、やはり子どもたちが今までどおりにできるような形を理想としながら、どうやっていくかということは、しっかりと考えていく。

今、国や県でスキームは考えていますけれども、でも、実際現場では違いますから、そこを踏まえて、学校の用具を貸すとか備えるとかありますけども、別に購入する方法もあると思うので、いろんな形でスタートして、この防府の子どもたちに合った形の支援が必要じゃないかと思っています。

まずはスタートしてみないと、ちょっと、どういう形になるか分かりませんが、いずれにしても、防府の子どもたちが、今までと同じように、今回の改革で、経済的負担が大きくなることや、したかったことができなくなったとかいうのが、できるだけないようにしていくのが、行政の役割だと思っています。それは、しっかり対処していきます。

○小松委員　地域で学校運営協議会っていうのがあるじゃないですか、あれはどのように関わり合っているんでしょうか。せっかく、学校と地域が連携して地域の子どもは地域で育てるとやっているから、さっきあった地区で集まって、どういうふうにもっていったらもっと地域でできるかってことを検討したらといいんじゃないかと思います。それをばらばらでやってしまってもうまくいかない。

あと、モンローの派遣ですが、基本的には、市長さんとしてはモンローに中学生を参加させるというのは賛成ですか。

○市長　はい。

○小松委員　何人ぐらいを考えていらっしゃる。

○市長　今、調整中ですけれども、今は英語の時代になって、昔はなかなか留学できなかったから行政がその場をもっていましたが、今は、かなり自由に留学できる場があるということと、やっぱり、今、英語教育に富海小・中が取り組んでいるわけで、富海小・中学校にモンロー学級を作って、モンローの子どもたちにそこに来てもらって、防府の中学生と交流してもらえれば一番いいと思うんです。そうすると、防府の子どもたちがカルチャーショックを得ることができる。また、向こうに高校生も行きますけれども、少しでも若いときにカルチャーショックを受けて、高校、大学と夢を持つ子どもたちが増えるんじゃないかなと思うんですよね。

やっぱり教育委員会は義務教育が範疇なので高校生には踏み込めない。そこの部分でいうと、市の教育に反映しようと思ってもなかなか難しい。義務教育の子どもたちが交流することができたら、いろんなところに波及できると思いますし、このモンローとの交流を防府の教育にしていって欲しい。少しでも多くの子どもたちにモンローを知ってもらうために、モンローの子たちがこっちに来られたときに、何時間かでも富海小・中学校に行ってもらったら、多くの防府の中学生がモンローの子たちと交流できて、カルチャーショックを得ることができる。また、富海に作るモンロー教室に、モンロー市の市長さんの名前を付けたらいいんじゃないかなと思っています。

○小松委員　非常にいいなと思います。若いときに行って、向こうでいろんな経験をすると夢をもつと思うんです。きっと。そういうのは若いときのほうがいいから、そういう意味では中学生の派遣は賛成ですね。

○田村委員　下関に居たときに中国の青島と小６で交流をしていました。その１０名の中で３名といまだに年賀状のやりとりをしているんですけど、やっぱり小さいほど大きな刺激を受けるので、中学生もちろん小６でもいいと思っています。

○市長　若いときに、そうしたほうが大きく変わっていくんじゃないかなと思います。

ほかに何かありますか。

○温水委員　防府カップを４月に開催ってありましたけど、３年生は、この４月の防府カップで最後。

○教育長　４月に新チームで戦って選手権予選が最後です。やっぱりチームができて、しっかりした大会で１回やってもらって、最後、大会をしっかりと力を発揮してもらおうということで。

○市長　大会の前に一度舞台を経験して、そして県大会を頑張ってもらおうかなと。それとやっぱり熱中症対策もあります。

はい、どうぞ。

○小松委員　さっき、説明をしてもらったと思いますが、防府カップっていうのは、防府の大会、スポーツで、いくつぐらいが対象なっているんですか。

○市長　県大会と同じ。

○教育長　中学校でやっている部活の大会で、野球の大会やバスケの大会など、その全部に防府カップという名前をつけて市がやっています。

○小松委員　どうもありがとうございます。

○市長　その他、何かありますか。どうぞ。

○村田委員　富海小・中学校で英語教育を推進しているということで、一般の小学校とは、小中学校のカリキュラムが違うんですよね。

○学校教育課長　ほかの学校は、外国語活動を小学校３、４年生から進めておりますが、富海小学校はカリキュラムを変更しまして、小学校１年生から英語の授業を行っています。

○村田委員　授業数とかは。

○学校教育課長　授業数は教科のコマ数で、ＡＬＴが常駐しています。

○小松委員　すごいですよね。小学校１年生から英語が話せる。

○市長　市内全域から校区越えて２０人ぐらいが通っています。

あと、時間の都合がありますので、これで終わりにさせていただきますけど、今日は「がんばる子どもたちの活躍の場について」、子どもたちみんなが頑張るという意味で、子どもたち一人一人が頑張るという活躍の場について、御理解いただけたらと思います。

それから、元気な子どもたちということで、今日お話をさせていただきましたけど、様々な御意見をいただきましたので、これからの子どもたちの教育というか、その場について、また地域クラブのほうは先ほどありましたように、スタートする中で何が必要か、その時々で考えていかなきゃならないと思いますけれども、常に防府は先頭に立って進んでいきたいと思いますので、これからも本市の教育に対して、様々な御意見を賜りますようお願いしたいと思います。今日は本当にどうもありがとうございました。

○教育部長　皆様、本日は貴重な御意見をいただきありがとうございました。

以上で、令和５年度防府市総合教育会議を終了します。

本日はありがとうございました。